平成 23 年 10 月 13 日

各　　位

会 社 名　株 式 会 社 マ ル マ エ
代表者名　代表取締役社長　前田　俊一
（ コード番号：6264　東証マザーズ ）
問合せ先　取締役管理部長　藤山　敏久
（ TEL. 0996-64-2900 ）

平成 23 年９月度 月次受注残高についてのお知らせ

当社は、投資家をはじめとするステークホルダーの方々に、より正確に当社を理解していただくために、自社情報のタイムリー・ディスクロージャーを推進しておりますが、この一環として、下記のとおり当期平成 23 年９月度月次受注残高情報を開示いたします。

記

１．月次受注残高　　（百万円未満切捨て）

区分	受注残高	割合	対前月増減率	対前年同月増減率
ＦＰＤ分野	168	88.2%	6.1%	59.5%
半導体分野	21	11.4%	△37.1%	△6.3%
太陽電池分野	0	0.1%	0.0%	△97.6%
その他	0	0.3%	△78.1%	△67.0%
合計	191	100.0%	△2.7%	36.4%

２.月次受注残高の推移　　（百万円未満切捨て）

区分	H22.10 月	11 月	12 月	H23.1 月	2 月	3 月
ＦＰＤ分野	116	※123	132	105	55	※91
半導体分野	36	※36	44	52	99	51
太陽電池分野	11	6	0	7	11	5
その他	1	0	2	2	2	1
合計	164	166	180	168	170	※148

区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
ＦＰＤ分野	※135	※144	156	188	159	168
半導体分野	30	※35	35	28	34	21
太陽電池分野	0	0	0	0	0	0
その他	2	0	1	0	2	0
合計	※168	※181	194	217	196	191

※四半期決算処理に伴う修正を行いました。

３．月次受注残高の概況

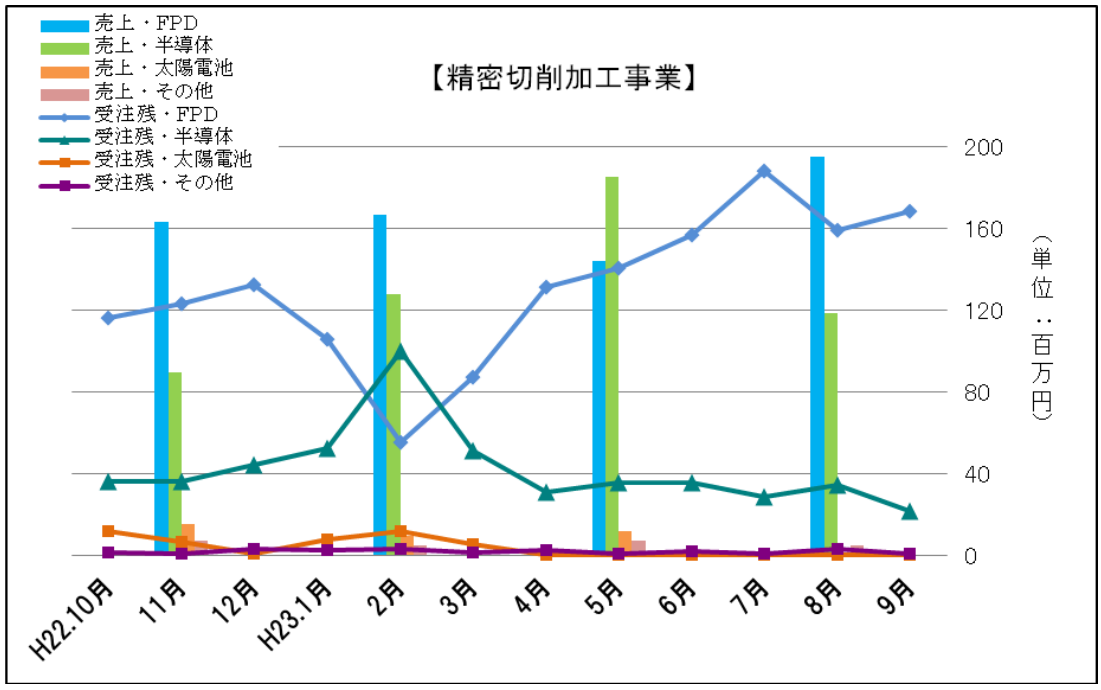
平成 23 年９月末の受注残高は、ＦＰＤ分野においては、中小型製造装置向けの需要が継続し、受注及び出荷検収がともに好調に推移したため、対前月増減率で 6.1%増、対前年同月増減率では 59.5%増の 168 百万円となりました。また、半導体分野においては、出荷検収は順調に進みながらも、市況の減速が顕著でリピート品の受注が減少したため、対前月増減率 37.1%減、対前年同月増減率 6.3%減の 21 百万円となりました。一方、太陽電池分野の受注においては、事業再生ＡＤＲの影響が無くなり、受注再開したものの、受注及び出荷検収は対前月微増程度となっております。これらの結果、全体としては対前月増減率 2.4%減、対前年同月増減率 36.4%増の 191 百万円となりました。

今後の受注見通しといたしまして、ＦＰＤ分野においては、月次では受注の山谷がありながらも、タブレットＰＣ等に向けた製造装置需要が継続する見通しであります。半導体分野においては、製造装置需要の受注環境がしばらく低迷する見通しがあると同時に工場稼働率も停滞傾向で、新規装置向け部品と消耗部品ともに受注減少が続く見通しを持っております。太陽電池分野においては、当社の得意とする薄膜系の装置需要は停滞しながらも他分野装置部品の受注は回復傾向となっております。

全般的には、市場環境の悪化しておりますが、当社では消耗品受注の品種拡大や試作品受注の拡大で受注維持を図る方針です。また、協力企業との取引拡大や短納期対応力の向上など、市場環境の影響を受けにくい施策に取り組んでまいります。

以　　上

(参考：分野別　過去一年間の四半期売上高と月次受注残高の推移)



注 1. 上記受注残高の数値は、速報値であるため、翌月以降に修正される可能性があります。また、監査法人による会計監査を受けておりませんので、本決算の数値とは差異が発生する可能性があります。

2. 当社の受注残数値は、受注別に長短さまざまなリードタイムを持つことから、売上高と直接関連するものではありません。リードタイムの長い案件が増えると受注残が多くなり、リードタイムが短いか当社月間生産能力範囲内の受注が増えると受注残が減る傾向となっております。